

日比谷アメニスグループが提供する環境価値

私たち日比谷アメニスグループでは、持続可能な社会を実現するためにさまざまな活動を行っています。ここでは、活動が社会に提供している環境価値を樹木の植樹本数・緑地の管理面積・使用電力の再エネ率・紙の使用削減量として定量的に示す各種データをご紹介します。

高木の植樹本数 6,335 本

樹種ごとの本数ランキング
1位：シラカシ 1575本 2位：ソヨゴ 349本 3位：モチノキ 276本
4位：イロハモミジ 257本 5位：シマトネリコ 213本

中低木の植樹本数 363,574 本

造園施工の仕事では、都市にたくさんのお木を植えています。みどりを増やすことで、都市環境の改善につなげています。



2019年4月～2020年3月の期間で、弊社の施工管理のもとで植樹した樹木の本数を集計しています。樹高3m以上の樹木を高木、樹高3m未満の樹木を中低木として集計しています。



2020年4月～2021年3月の期間に契約をしている植栽管理案件・PPP事業の管理運営案件の管理面積から算出しています。

緑地の管理面積 968 ha

東京ドーム 207 個分の面積にあたります。

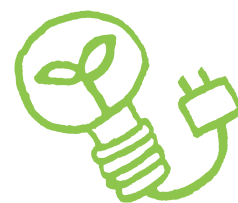
植栽の管理を通じてみどりを育てることで、オフィスビルやマンション等のよりよい環境をつくり、公園の利用環境を向上させています。これらを通じ地域社会や生物多様性への貢献も果たしています。



使用電力の再エネ率 2021年2月時点 1% → 2021年8月時点 24%

再生可能エネルギー電力への切り替えにより削減できるCO₂排出量の想定値 612t-CO₂/年

当社が管理運営する都市公園で再生可能エネルギー電力への切り替えを開始しました。2021年3月には東部公園で、同8月にはイケ・サンパークで切り替えを実施し、再エネ率が向上しています（別記事で東部公園における取り組みを紹介しています）。2030年までに全ての公園での切り替えを目標にしています。



再エネ率・CO₂排出量は、2020年4月～2021年3月の期間の日比谷アメニスグループ各事業所・工事業の各事務所・PPP事業の管理運営案件の各事業所における消費電力量や電気料金から推計しています。



2020年4月～2021年3月を今年度、2019年4月～2020年3月を前年度とし、日比谷アメニスグループ各事業所内のコピー機の印刷枚数カウンター数量を集計しています。

前年度からの紙の使用削減量 42,110 枚

今年度の紙の使用量 1,375,443 枚（前年度から3%削減）

オフィスにおけるペーパーレスの取り組み等により、紙の使用量を削減することができました（別記事でオフィスにおけるペーパーレス化の取り組みを紹介しています）。事務的な業務についても、環境貢献度を高める取り組みを推進しています。

